

4 - 10 尾張及び志摩半島一次基準点測量結果

Horizontal Earth's Strain in Owari District and Shima Peninsula

国土地理院測地部
Geodetic Division, Geographical Survey Institute

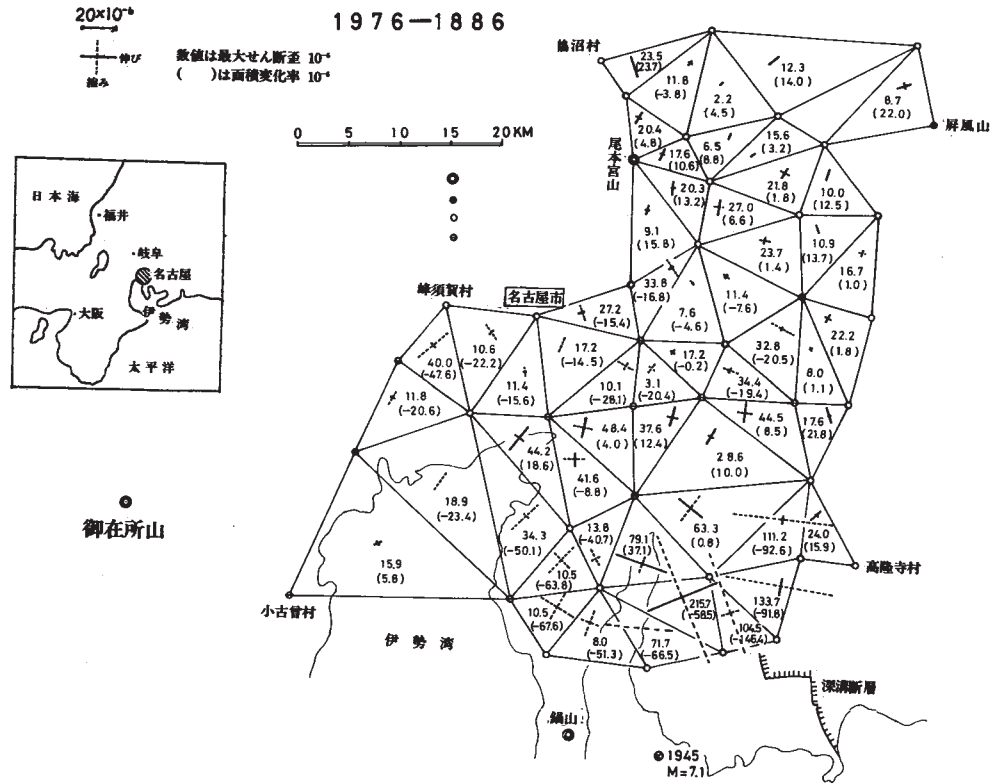
精密測地網一次基準点測量が尾張地区において、1976年8月～12月（一部、1975年9月～10月）、志摩半島において、1976年9月～10月に実施された。この測量は、既設の一、二等三角点間の辺長を直接光波測距儀で測定する三辺測量方式であるが、その一部の辺については、來角の測定を行って、二辺夾角で計算されたものである。

第1図は、1886年観測成果と今回の観測成果との比較から求めた尾張地区の水平地殻歪である。1886年の観測による成果は、一等三角点尾本宮山、鍋山、御在所山の学術成果を与件として、当時の角観測値を用いて新たに網平均したものである。この歪図の下のほうで、1945年に三河地震（ $M = 7.1$ ）が起り、それに伴ない深溝断層で最大2mの上下ずれがあった。1955年西尾市附近での三河地震二、三等復旧測量と1886年との比較では、南北伸びを示していたが、この歪図での西尾市附近は、南北縮みを示している。歪図左上での1891年の濃尾地震による顕著な変化は見られない。

第2図は1888年観測成果と今回の観測成果との比較から求めた志摩半島の水平地殻歪である。1888年の観測による成果は、一等三角点三嶺山、朝熊山の学術成果を与件として、当時の角観測値を用いて網平均したものである。1946年南海地震後のこの附近の測量結果と1888年との比較によると、この歪図の地区は、最大せん断歪が 2×10^{-5} 程度で伸びの主歪の方向は $N 40^{\circ}W$ であったと推定されている。この歪図によると、この方向では 1×10^{-5} の縮みが見られる。従って1946年から1976年の30年間に 3×10^{-5} の縮み、即ち、 1×10^{-6} /年の歪速度で圧縮が進行してきたことになる。

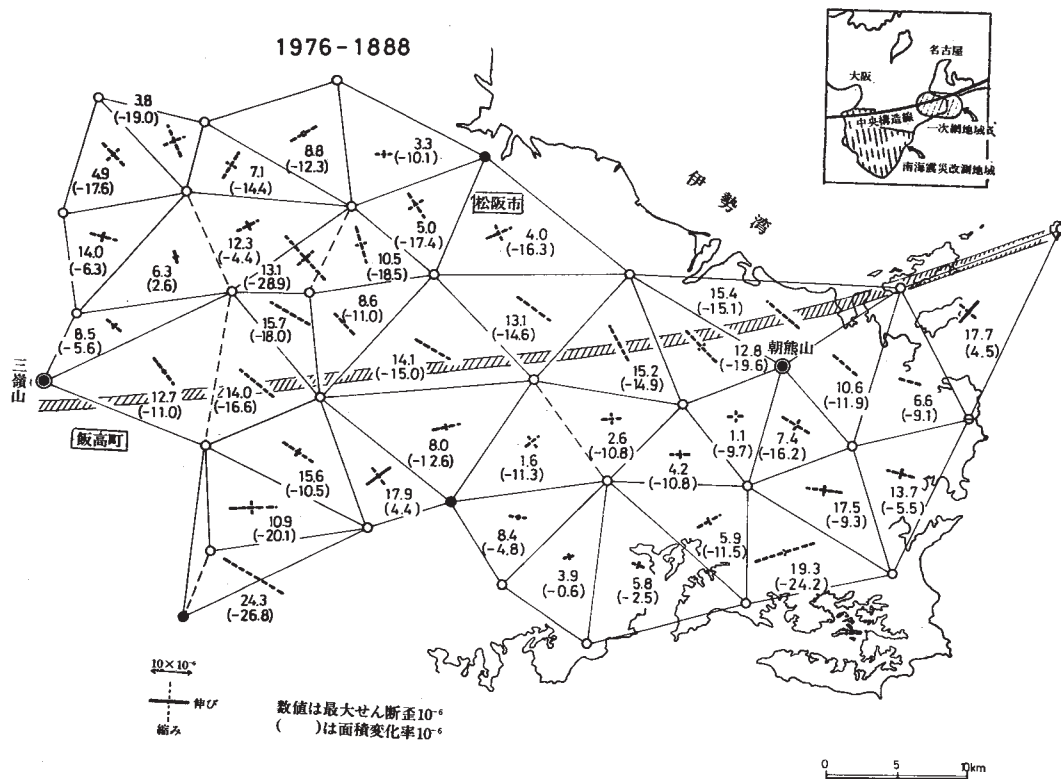
参 考 文 献

- 1) ANDO, M. 1975 a, Tectonophysics, 25, 69 - 85.
- 2) 石橋克彦：第34回地震予知連絡会資料



第1図 尾張地区の水平地殻歪 (1976 - 1886)

Fig. 1 Horizontal Earth's Strain in Owari (1976-1886).



第2図 志摩半島の水平地殻歪 (1976 - 1888)

Fig. 2 Horizontal Earth's Strain in Shima Peninsula (1976 - 1888).